

宇宙救世主伝説タツちゃん・あらすじ

●一話完結形式・全六話

いまより少し昔の時代。九州の大学に学ぶ北海道出身のタツちゃんは、ある日宇宙人に出会う。全国から学生が集まるこの大学特有の、「全国ごちゃ混ぜ方言」を見事に使いこなせる宇宙人に、親近感を覚えたタツちゃんは、「宙公」と呼ぶほどに親しくなり、宙公に誘われるまま、宇宙の危機を救う「新人類」になるためのテスト「サイコワープ」を受ける。が、結果は失格。

しかし、宇宙の危機は切迫しており、宇宙人のタツちゃんへの「新人類」リクルートは何度も続く。タツちゃんと言えば、友人達と飲みに出かけたり、片思いにしかならない恋にうつつを抜かしているだけで、宇宙の危機など眼中になかった。

そんなある日、いつもの飲み仲間と、山の中の川で魚取りをしていたタツちゃんは不思議な少女に出会い、宇宙を旅する不思議なキツネ猫族の話聞かされる。この宇宙はすでに滅亡しており、時間と空間を入れ替える能力のある、このキツネ族は、穴を掘り進みながら滅亡を逆進して、地球までやって来ているのだと言う。そして、掘り続けなければ滅亡する、そんな悲惨な旅が行われているのはタツちゃんが救世主になることを拒んだからだと言われ責め立てるのだった。

なんと、タツちゃんは救世主になれる可能性があると言われ、彼らの古くからの言い伝えに残されているのだと言うのだ。それでも宇宙の滅亡という壮大な話に実感を持たないタツちゃんにキツネ族の長、スエンは腹を立て、強制的に救世主になる儀式を執り行なう。夢の中で世界の滅亡を体験してしまうタツちゃん。なのに、やはりタツちゃんは救世主にはなれない。

言い伝えが現実にならなかつた事に肩を落とすスエンに「滅亡を受け入れて、旅を楽しめばいいじゃないか」と逆提案するタツちゃん。そんなお気楽な提案を、しかしスエン達は「それも生きる道だ」と、受け入れてしまう。

このキツネ族の決定は、彼らキツネ族の能力に頼って全宇宙の滅亡をわずかながらでも遅らせようとしていた、宇宙銀河連盟にとってはショッキングな出来事だった。こうなれば、どんな事があっても、救世主を自覚めさせるしかない。タツちゃんに危機を感じさせるため、タツちゃんの飲み仲間が次々に洗脳され、タツちゃんから引き離された。

自分のせいで、友人達の人生が狂わされたタツちゃんは、その仕打ちに怒り、宇宙へと旅立つ。宇宙の王「グエラ」に、友達を返せと文句を言うタツちゃん。その怒りが頂点に達したとき、タツちゃんは本当に救世主となり、宇宙全体を覆っていた滅亡の影を打ち払ってしまったのだ。

危機が去った銀河連盟では、宇宙の危機の本当の仕組みが解明され、そこから「あらたな宇宙」への扉が見つかる。また、タツちゃんの友人達も「狂った人生」がきっかけになり、新たな人生が始まる。しばらくぶりに仲間達と酒を酌み交わすタツちゃんはとても幸せだった。

※ストーリーの中盤以降、東北大地震の津波被害を思わせる表現が出てきますが、原稿作成は震災以前に行われております。震災をテーマとはしておりませんし、内容も、一切関係がありませんので、「了承ください」。

※あらすじはストーリーの概要のみを要約しておりますので、実際の物語の細目とは、かなり大きく異なります。「了承ください」。